

弘前大学インフラ長寿命化計画（個別施設計画2026）概要

1. 現状の課題

- ・ 建築後50年以上が経過した施設が約4割、建築後25年以上で改修を要する施設が約3割を占めており、今後は整備費の増加が見込まれる。
- ・ これら老朽化した施設を、厳しい財政状況や社会環境の中で、いかに効率的かつ計画的に維持・更新していくかが課題となっている。

2. 国の施策

- ・平成25年11月「インフラ長寿命化基本計画」インフラ老朽化対策の推進に関する関係府省庁連絡会議」
- ・平成27年 3月「文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）」（文部科学省）
- ・平成30年12月「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」
- ・令和 2年 7月「経済財政運営と改革の基本方針2020」
→予防保全の高度化・効率化による施設の長寿命化や集約化等を通じた公的ストックの適正化、PPP/PFI等の官民連携手法を活用し、民間の創意工夫を最大限取り入れる
- ・令和 3年 3月「文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）」（文部科学省）
→“事後保全から予防保全へ”の転換が明確化

3. 弘前大学インフラ長寿命化計画の策定

- ・平成29年3月「国立大学法人弘前大学インフラ長寿命化計画（行動計画）」を策定
(計画期間 ～令和8年3月)
- ・令和 2年3月「国立大学法人弘前大学インフラ長寿命化計画（個別施設計画）」を策定
(計画期間 ～令和8年3月)
- ↓
- ・令和 8年3月「国立大学法人弘前大学インフラ長寿命化計画（行動計画2026）」を策定
(計画期間 ～令和13年3月)
- ・令和 8年3月「国立大学法人弘前大学インフラ長寿命化計画（個別施設計画2026）」を策定
(計画期間 ～令和13年3月)

4. 弘前大学インフラ長寿命化計画（個別施設計画）

（1）策定の目的

- ・安全・安心の確保、中長期的な維持管理・更新等に係るトータルコストの縮減や予算の平準化を実現する（目標使用年数80～100年）

（2）推進の方策

- ・適切な施設管理・維持管理を計画的に行い、事後保全から長寿命化保全へ転換する
- ・全面改修（経年40年頃）、性能維持改修（経年20・60年頃）、基幹設備・ライフライン更新（法定耐用年数の2倍）を優先順位により整備費の平準化を行い、計画的に実施
- ・施設の総量の最適化と重点的な整備を実施
(施設のトリアージ：機能向上、性能維持、改築集約等)
- ・施設マネジメントや多様な財源による財源確保
整備費（算定期間30年：総額637億）
〈必要額〉 ・補助金（19.6億円／年）
・学内財源（1.6億円／年）
〈予算額〉 ・補助金（12億円／年）・学内財源（0.7億円／年）

優先順位付けの観点
「経年」「良好な教育研究環境の確保」
「中期目標・中期計画との整合性」
「保有施設の総量抑制」

（3）実施による効果

- ・建物の更新費用の抑制（トータルコストの縮減、予算の平準化）
- ・施設運営及び維持管理費の最適化
- ・サステナブルな施設整備や維持管理の実現
(持続可能なキャンパスを実現し次の世代に継承)
- ・大学経営基盤の強化



施設の基本情報

- ・管理エリア
- ・改修履歴（点検保守含む）
- ・老朽度合い
- ・利用状況（利用方法、稼働率）
- ・施設キャラバン
(施設管理者との意見交換・現場調査)
- ・用途ごとの面積
- ・機能改善、維持費用等
- ・安全性等の必要な情報
- ・学生・教職員等の施設利用者のニーズ把握
- ・維持管理マニュアル
- 等々

施設マネジメントの展開

定期的に現場調査等を実施

実態調査

経年・事故
改修履歴
利用状況

環境管理アクションプラン

安全管理
事故防止
環境改善

保全カルテ

施設状況
設備状況
維持管理

施設キャラバン

ハザードマップ

施設保全点検による
フォローアップ



できることから一つ一つ確実に、そして計画的に実施